

事務事業名	安藤家住宅イベント開催事業		所属部局	教育委員会		単位番号	12429												
			所属課室	文化財課		課長名	原 一												
	☐ 実施計画事業		所属担当	文化財		担当者名	市川千草												
基本政策	基本計画	V 個性と文化を育む都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目									
政 策	計画	25 文化づくりの推進	事業区分	01	一般	1	0	0	4	0	5	0	5	0	0	4			
施策	体系	39 歴史・伝統文化の振興		☐ 国の制度による義務的事業	☐ 施設等維持管理事業														
				☐ 県の制度による義務的事業	☐ 補助金交付事業														
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 20 年度)		法令根拠	南アルプス市安藤家住宅条例															
	☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)																		
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 平成20年度に市の所有となった。国重要文化財安藤家住宅の市内外への周知と、より一層の活用を図るため、市内小中学校、及び市民一般に向けた各種イベントを開催する			事業費の主な内訳 (22年度)															
				項目(細節)				金額(千円)				項目(細節)				金額(千円)			
				講師謝金				45											
				消耗品費				160											
				その他の委託料				199											
																計 410			

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
22年度活動実績	「五感で感じる安藤家秋祭り」「安藤家でミニ門松づくり」「安藤家で雛かたり」
23年度活動予定	平成22年度と同様に秋祭り等イベントを行う
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
一般住民(小中学生ふくむ)	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	
市の文化を発信し、多くの人が集い交流する施設。様々な企画を通して歴史文化の発信拠点であり且つ文化交流の場であることを広く知ってもらい機会をつくることにより、ふるさと意識や郷土愛を育む。	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
歴史的・文化的背景を尊重したまちづくりが行われる。歴史的文化的背景をよりよい形で次代へ継承出来る	

⇒ ⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
アイウ	参加者数 人
⇒ ⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
アイウ	人口 人
⇒ ⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
アイウ	地域を知りふるさと意識や郷土愛を持っていると答えた市民の割合 %
アイウ	電人の残した知恵や文化を大切に思いこれを次代に守り伝えて行こうと思うと答えた市民の割合 %
⇒ ⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
アイウ	歴史的、文化的背景を尊重したまちづくりが行われていると答えた市民の割合 %
アイウ	地域の文化財を守り伝え活用している自主的団体(NPO)等の数 件

(2) 事業費・指標の推移

		単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終年度 (トータルコスト・目標)
年間トータルコスト	事業費	国庫支出金	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円	34	80	200	200	200	
		一般財源	千円	315	330	196	236	275	
	事業費計 (A)		千円	349	410	396	436	475	0
	人件費	正規職員従事人数	人	5	5	5	5	5	
		延べ業務時間	時間	96	96	800	800	800	
		人件費計 (B)	千円	428	428	3,170	3,170	3,170	0
	(A)+(B)		千円	777	838	3,566	3,606	3,645	0
活動指標		アイウ	人	754.0	450.0	550.0	600.0	650.0	700.0
対象指標		アイウ	人	72,000.0	72,000.0	72,000.0	72,000.0	72,000.0	
成果指標		アイウ	%						
上位成果指標		アイウ	%	38.0	34.0	38.0	38.0	39.0	40.0

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	平成20年度から、県から市へ譲渡されたことにより、より一層の入館者増が求められたため
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	安藤家の秋祭りも恒例となり、リポーターも多くなっている。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか?	秋祭りのイベントが楽しみと言う声が多数寄せられている

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	☐ 取り組みしている ⇒【内容!】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由!】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	予算を抑えながらイベント内容の充実をはかる。体験学習は地元ボランティアの協力の元行っている。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	イベント準備等職員の手で行い、イベントの充実を図った。

事務事業名	安藤家住宅イベント開催事業	所属部	教育委員会	所属課	文化財課
-------	---------------	-----	-------	-----	------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 地域の象徴として古来から守り伝えられてきた文化財は地域の大切な資源といえ、これを活用することは地域文化振興の素材となりうる。	
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 市の重要文化財であり、より一層の活用を図るため市が行うことは妥当である。	
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 多くの方々に安藤家の良さや価値を知ってもらうために当面の間継続していく必要がある。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 より市民のニーズを掴むためアンケートの実施を検討する。	
	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入！) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない	
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 安藤家を知ってもらう機会が減る	☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 より多くの方々に知ってもらう可能性が無くなる
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 これ以上の削減は企画内容の質の低下につながる	
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 現状は最低限の人件費のみのためこれ以上の削減の余地はない	
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 イベント開催時は広報、CATV、各種報道機関への周知を行っている。 また、イベント開催時に参加料もっており金額も妥当	

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	安藤家での秋祭りも恒例となり、定着してきたように感じる。今後は新しい入館者をつかむためにイベント内容を検討しながら企画していく。またイベント内容が決定したら早いうちから周知を行う

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト水準</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th> <th>向上</th> <td>☐</td> <td>☐</td> <td>☐</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td>☐</td> <td>☒</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td>☐</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	☐	☐	☐																		
	維持	☐	☒																			
	低下	☐																				
(2) 改革改善案について																						
① イベント内容の充実 ② 広報活動の充実 ③																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策	(5) 事務事業優先度評価結果																					
① イベント開催にあたり情報を収集する ② イベント内容が決定したら早い段階から周知する ③	<table border="1"> <tr> <td>成果優先度評価結果</td> <td>⑧</td> </tr> <tr> <td>コスト削減優先度評価結果</td> <td>⑥</td> </tr> </table>	成果優先度評価結果	⑧	コスト削減優先度評価結果	⑥																	
成果優先度評価結果	⑧																					
コスト削減優先度評価結果	⑥																					